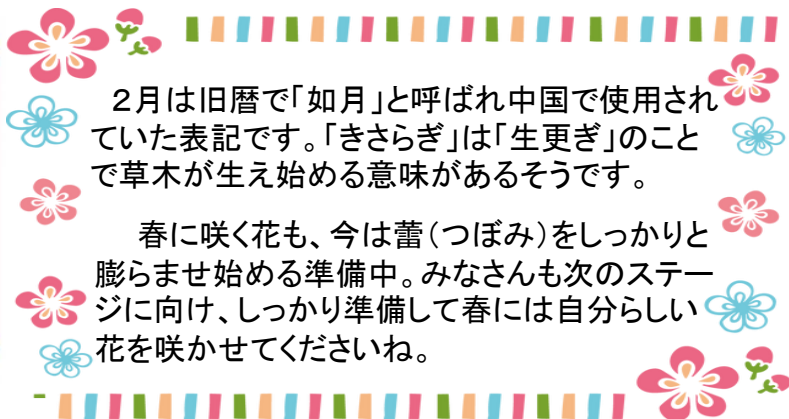


図書館だより 2月号



令和3年2月発行
吉川市立南中学校
学校図書館



2月は旧暦で「如月」と呼ばれ中国で使用されていた表記です。「きさらぎ」は「生更ぎ」のことで草木が生え始める意味があるそうです。

春に咲く花も、今は蕾(つぼみ)をしっかりと膨らませ始める準備中。みなさんも次のステージに向け、しっかり準備して春には自分らしい花を咲かせてくださいね。

今年度最終貸出日について

○最終貸出日：～2月22日(月)

○最終返却日：～3月5日(金)



★3年生は、今一度、家に南中の図書がないか確認をお願いします。

★もし、見つかった場合は必ず3月5日(金)までに返却してください。

今年の節分は124年ぶりの2月2日!?

2月3日が節分と覚えている人も多いと思いますが、今年は明治30年(1897年)以来124年ぶりに、2月2日が節分となる年だそうです。

四季のある日本では、1年を春分の日と秋分の日で分け、それぞれを12等分して季節の名前を付けた『二十四節気』という季節の目安があります。季節は地球が自転軸を傾けたまま太陽の周りを公転することによって変化し、少しずつズレるため、今年は立春が2月3日になります。節分は、「立春」の前日と決まっていますので、2月2日が節分となるのだそうです。中国から伝わった旧暦と併用して季節の目安にしていた『二十四節気』。この機会に覚えてみませんか？



「二十四節気」をさらに3等分して5日ごとに区分けした七十二候のそれぞれの自然動物や植物の様子がイラストで紹介されている本。春・夏・秋・冬の4巻じっくり見ると日本の四季の良さを再発見できそう。



209の国と地域について、国のようにと祝日が紹介されている。

巻末には世界各国でいろいろなカレンダーを基に祝日が決められていることがよく分かる「祝日と暦」という解説があり、日本の暦の歴史も詳しく書かれていて興味深い。



世界の国々と祝日/
本村凌二 監修[386セ]

絵本ごよみ 二十四節気と七十二候

春・夏・秋・冬/

坂東眞理子 監修[449I1~4]

奈良の唐招提寺の大工見習いとなった少年ヤスとお堂の屋根を支える隅木の下にいた鬼の話。昨年は鬼ブームだったが、こんな鬼もまた気概があって魅力的でおすすすめ。

すみ鬼にげた/

岩城範枝 作 松村君嗣 絵

[913I]



そもそも、当たり前に使っているカレンダー(暦)は、どうやって決まったのだろう。
江戸時代まで使われた中国の宣明暦が、日本との位置の違いによる誤差を計算して、日本独自の暦に改暦される。
この本は、その計算をした洪川春海の話。いかにその時代に暦を作ることが重要だったか。時代背景も含めて、暦の奥深さに触れられる一冊。



天地明察/冲方丁[913ウ]

